

都市再生整備計画

おぶすまえきしゅうへんちく
男衾駅周辺地区

さいたまけんよりいまち
埼玉県寄居町

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	寄居町	地区名	男衾駅周辺地区	面積	90.7	ha
計画期間	平成	25	年度	～	平成	29	年度	
					交付期間	平成	25	年度
						～	平成	29
								年度

目標

- 大目標:豊かな自然環境と共生し、にぎわいのある都市拠点(地区生活拠点)を形成するとともに、快適な居住環境を有する住宅市街地を形成する。
 目標1:駅利用者の利便性の向上
 目標2:安心して暮らせる住環境の整備

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本町は、都心から約70kmに位置し、関越自動車道花園インターチェンジや事業化が決定した(仮称)寄居PAスマートインターチェンジをはじめ、2つの国道と3つの鉄道路線が交わる交通の要衝であるとともに、町の中心部を荒川が流れる、水と緑に囲まれた自然豊かな場所である。
- ・本地区は、東武東上線男衾駅を中心とした地区で、周辺には田園が広がり農村住宅が分布している。地域の北部には荒川が流れ、南部には森林地域が存在しており、一部を工業系の土地利用がなされてきている。
- ・この工業系の土地利用において、平成18年には彩の国資源循環工場が全面稼働し、平成25年度にはホンダ寄居新工場の稼働開始が予定している。このため、最寄駅となる男衾駅の利用者数の増加が予想される。
- ・このような状況の中で本駅は、大正14年に東口のみ開設された古い地上駅で、駅前広場も十分に整備されていないため、朝夕の送迎時には自動車、歩行者等が混在し、渋滞を引き起こしている。
- ・また、本駅周辺は、市街地が形成されているが十分な基盤が整備されていないため、適正な基盤整備を進めながら新市街地ゾーンとして良好な住宅地を整備していくことが求められている。
- ・本地区を魅力的な住宅地として創出していくためには、都市活動や都市生活に必要な機能を確保し安心して生活できる環境を提供する必要があり、付加価値の高い住宅地の形成を目指していくことが求められている。
- ・移動空間としての道路は、南北方向は国道254号に1路線に頼らざるを得ない状況にあるため、男衾駅周辺地区を挟み国道254号との対極となる県道菅谷寄居線の延伸により、南北交通の分散化を図っていくことが必要である。

課題

- ・東口への交通の集中化を解消するため、西口を開設し交通の分散化を図るとともに駅へのアクセス道路を整備する必要がある
- ・駅東口には田園が残されている部分があり、地域の原風景でもある田園風景を活用して緑豊かな住環境整備が必要である
- ・駅東口周辺は排水が悪く、以前から水害がおきており、安全・安心な都市生活を確保する治水対策の強化が重要な課題となっている

将来ビジョン(中長期)

- ・第5次寄居町総合振興計画後期基本計画
「平成25(2013)年のホンダ寄居新工場の稼働が決定したことから、男衾駅周辺地区の整備を行い、通勤等の利便性を高めていくことも求められています」
- ・寄居町都市計画マスタープラン
「土地区画整理事業等による新市街地としての整備の推進を図る」

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
地区内居住人口	人	当地区内に居住する町民の人数	1,986	H23	2,000	H29
踏切自動車交通量	台	通勤通学時(7～9時及び17～19時の4時間)の駅北側町道踏切における自動車通行量	331	H24	280	H29
自由通路通行者数	人/日	自由通路の通行者	0	H24	2,300	H29

男衾駅周辺地区(埼玉県寄居町) 整備方針概要図

目標	1 駅利用者の利便性の向上	代表的な 指標	地区内居住人口 (人)	1,986 (H24年度)	→	2,000 (H29年度)
	2 安心して暮らせる住環境の整備		踏切自動車交通量 (台)	331 (H24年度)	→	280 (H29年度)
			自由通路通行者数 (人)	0 (H24年度)	→	2,300 (H29年度)

